

Japanese Institute of Landscape Architecture

学会広報

平成十八年十月六日発行

第18巻・第3号

平成18年度関西支部大会案内	1
〳 東北支部大会案内	3
〳 中部支部大会案内	4
シンポジウム「中越震災みどりの復興」	
ーランドスケープからの提案	6
〳 「フラワータウンまちづくり交流祭2006」	
ー魅力あるニュータウンのこれから	7
〳 造園・環境緑化産業振興会	
「新時代の都市公園づくり」	8
フォーラム 第5回農村研究フォーラム「農村は頑張る」	9
〳 第15回都市環境デザイン・フォーラム・関西	10
文献紹介	11
平成17年度中部支部大会研究・事例報告会抄録	15
文京区立元町公園の都市計画変更問題にかかわる学会の取り組み状況(中途報告)	19

〈編集〉(社)日本造園学会事務局

〒150-0041 東京都渋谷区神南1-20-11 造園会館6F

TEL 03-5459-0515、FAX 03-5459-0516

平成18年度日本造園学会関西支部大会案内 関西支部設立40周年記念大会

標記の大会を下記のとおり開催いたします。会員各位多数のご参加をお待ちしております。関西地区以外の方々もご参加ください。

■ 開催月日：平成18年10月13日（金）～10月15日（日）

■ 開催場所：京都

◆13日：京都迎賓館日本庭園／保津峡

◆14日・15日：京都大学農学部総合館

（京都市左京区北白川追分町，京阪「出町柳駅」下車東へ徒歩15分）

■ 日 程：

<第1日目>10月13日（金）

・見学・研修会（申込終了いたしました）

<第2日目>10月14日（土）

11：00～12：00

基調講演「京都和風迎賓館庭園について」（株）植藤造園代表取締役佐野藤右衛門

13：30～16：30

パネルディスカッション「古いにしへの京の風土を次代に継承するために」

○パネラー：

風土保全と風致保全に向けた行政的取組みについて 木村 裕（京都市風致保全課課長）

千年の都・京都の美しい鴨川づくりについて 古賀俊行（京都府河川計画室長）

京都三山の森林景観の推移と課題について 奥 敬一（（独）森林総合研究所主任研究員）

京の風土を活かしてきた庭づくりの技術について 井上剛宏（（株）植芳造園代表取締役）

五山送り火を支えてきた市民の心意気について 長谷川綏二（（特）大文字保存会副理事長）

○コーディネーター： 森本幸裕（京都大学地球環境学堂教授）

17：30～19：30 懇親会 於 京大会館（地階レストラン「このえ」）

<第3日目>10月15日（日）（発表の申込は終了いたしました）

10：00～12：00 研究・事例発表セッション（午前の部・口頭発表）

12：00～13：00 幹事会

13：00～13：30 総会

13：30～15：00 研究・事例発表セッション（午後の部・口頭発表）

15：00～16：00 ポスター発表

参加費用：大会参加費 （一般）3,000円 （学生）1,000円

懇親会費 （一般）5,000円 （学生）2,000円

見学・研修会 実費

■ 問い合わせ先：

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院農学研究科環境デザイン学研究室内

日本造園学会関西支部事務局（担当：今西純一）電話：075-753-6099，FAX：075-753-6082

メール：imanishi@kais.kyoto-u.ac.jp

ホームページ：http://www.landscape.kais.kyoto-u.ac.jp/jila_w/annai.html

(社) 日本造園学会 風土造園部設立四十周年記念シンポジウム
いにしえの京の風土を
次代に継承するために

基調講演

11時～12時

○佐野藤右衛門(株) 植藤造園代表取締役

「京都和風迎賓館庭園について」

パネルディスカッション

13時30分～16時30分

○木村 裕(京都市風致保全課課長)

「風土保全と風致保全に向けた行政的取組みについて」

○古賀俊行(京都府河川計画室長)

「千年の都・京都の美しい鴨川づくりについて」

○奥 敬一(独) 森林総合研究所主任研究員

「京都三山の森林景観の推移と課題について」

○井上剛宏(株) 植芳造園代表取締役

「京の風土を活かしてきた庭づくりの技術について」

○長谷川綏二(特) 大文字保存会副理事長

「五山送り火を支えてきた市民の心意気について」

○森本幸裕(京科大学地球環境学学堂教授)

コーディネータ

入場無料 (資料代1000円)

日時: 10月14日(土) 11時開演

場所: 京科大学農学部総合館W100教室



主催: (社) 日本造園学会関西支部

お問い合わせ: 〒606-8502 京都市左京区北白川通分町

京科大学大学院農学研究科環境デザイン学研究室内 (社) 日本造園学会関西支部事務局 (担当: 今西)

電話: 075-753-6099, FAX: 075-753-6082, メール: imanishi@kais.kyoto-u.ac.jp

京都の風土は、東山・北山・西山の三山の樹林地、鴨川などの水辺、市内各地に点在する庭園などが、相互に関連した重層的構造を有しています。また本年は、「古都における歴史的風土の保存に関する法律」制定四十周年の年でもあります。そこで、次の一年を見据え、「いにしえの京の風土を次代に継承するために」と銘打ち、シンポジウムを開催すること致しました。

「京都の風土保全の取組みから見えてくるものとは何か」、「京の風土を守ってきた市民や関係者の想い、技術を継承するには何が必要か」という視点から問題を掘り下げ、風土形成計画の策定に向けた、京都からの発信を試みます。多くの市民のみなさまのお越しをお待ちしています。

平成18年度日本造園学会東北支部大会プログラム（案）

平成18年度日本造園学会東北支部大会案内

大会テーマ「まちなかのみどり風景－都市公園・緑地・広場－」

標記の大会を下記の通り開催致します。会員各位多数のご参加をお待ちしております。また、造園学会員以外の方や学生の参加も歓迎いたします。

研究発表会、基調講演、パネルディスカッション

■開催月日：平成18年10月28日（土）

■開催場所：日本大学工学部（7014講堂）

- | | |
|--|-------------|
| ●受付 | 10：00～ |
| ●総会 | 11：00～11：30 |
| ●シンポジウム開会 | 12：45 |
| ●研究発表会 | 13：00～14：15 |
| ●基調講演「景観行政の新たな展開」
榎野良明（宮城県土木部建設交通局長） | 14：20～15：20 |
| ●パネルディスカッション
テーマ「まちなかのみどり風景－都市公園・緑地・広場－」
パネリスト | 15：30～17：30 |
| ○佐川庄司（白河市・教育委員会文化課課長補佐）
・「まもるみどり風景（定信と庭園－南湖公園－）」 | |
| ○十文字泰市（郡山市・公園緑地課課長）
・「つくり育てるみどり風景（21世紀公園をはじめとする都市公園緑地行政）」 | |
| ○出村克宣（日本大学工学部教授）
・「創るみどり風景（日大工学部キャンパスの緑環境整備）」 | |
| ○榎野良明（宮城県土木部建設交通局長） | |
| コーディネーター 温井 亨（東北芸術工科大学） | |

■大会参加費（資料代を含む）：一般2000円、学生500円

懇親会

■開催日時：平成18年10月28日（土）

18：00～20：00

■開催場所：日本大学工学部（70号館 9階多目的ホール）

■参加費：3000円（学生1000円）

エクスカーション

■開催日時：平成18年10月29日（日）

9：00～14：00

■訪問場所

- ・郡山市・21世紀公園等
- ・白河市・南湖公園

■参加費

1000円（学生 無料） 昼食代は参加費に含まれません。

問い合わせ先

〒990-9530 山形市上桜田200 東北芸術工科大学内

日本造園学会東北支部事務局 温井 亨

TEL. 023-627-2078 FAX. 023-627-2252

*大会参加、エクスカーション、交流会、全て事前申し込みは必要ありません。

平成18年度日本造園学会中部支部大会案内

標記の大会を下記のとおり開催いたします。会員各位多数のご参加をお待ちしております。中部地区以外の方々もご参加ください。

■開催月日：平成18年11月3日（金：国民の休日）～4日（土）

■開催場所：3日：現地見学会：集合 JR 飯田線飯田駅前，13時

長野県飯田市役所において戦後の大火後の都市計画と復興のシンボルであるリング並木とこれをシンボルとする中心市街地活性化にむけた市街地再開発について概要説明（中心市街地活性化の取り組みは好事例として全国的に有名）

飯田市街地見学（リング並木，戦後の都市計画により街路と街路の間に造られた裏界線と呼ばれる道，再開発事業）

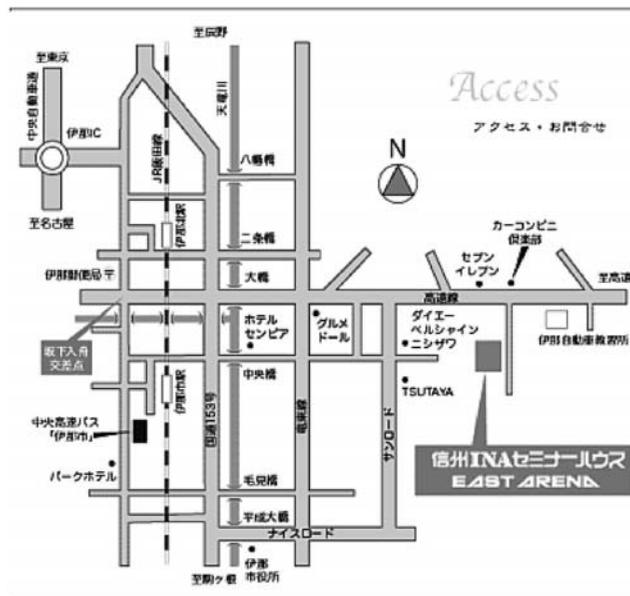
飯田美術博物館において近郊の自然の説明，及び柳田国男館見学終了後，バスで伊那市の懇親会場へ移動（例年ですとこの地域は紅葉のシーズンです）。

車で来られた方は一足先に伊那市に向かってください。伊那市駅前からマイクロバスで懇親会場に向かいます。

：懇親会：信州INAセミナーハウス（TEL0265-73-8811）

<http://www.seminarhouse.jp/>

4日：支部総会・講演会・研究発表会：信州大学農学部講義棟



■日 程：

<第1日目>11月3日（金）

見学会（集合：飯田駅前）

懇親会

13：00～16：30

18：00～20：00

<第2日目>11月4日（土）

受付	9:00～
研究発表・事例報告会（口頭発表及びポスターセッション）	9:30～11:00
講演会Ⅰ：模型で巡る世界の風景：景観模型工房主宰 盛口正昭氏 （模型も展示されます）	11:00～12:00
幹事会（各幹事はご出席ください）	12:00～13:00
総会	13:20～13:50
講演会Ⅱ：日本風景街道：国土交通省中部地方整備局 飯田国道事務所所長 関澤俊明氏	14:00～14:30
研究発表会	14:40～16:10

- 参加費用：大会参加費：（一般）3,000円，（学生）1,000円
 懇親会費：（一般）3,000円，（学生）無料
 見学会参加費（バス代他）：2,000円

■参加申し込み：下記問い合わせ先に問い合わせ下さい。

■問合せ先：

①会場・懇親会・見学会に関する問い合わせ

佐々木邦博 信州大学農学部森林科学科造園学研究室

住所 〒399-4598 長野県上伊那郡南箕輪村8304

電話0265-77-1500 FAX 0265-77-1500

E-mail: ksasaki@shinshu-u.ac.jp

③研究発表に関する問い合わせ

丸山 宏名城大学農学部生物環境科学科ランドスケープ・デザイン学研究室

電話052-838-2433 内線FAX 052-835-7450 E-mail: maruyama@ccmfs.meijo-u.ac.jp

■会場へのアクセス：

- ・信州INAセミナーハウス（TEL0265-73-8811）：飯田線伊那市駅下車あるいは伊那バスターミナル下車タクシーで10分
- ・信州大学農学部：JRでは飯田線伊那市駅下車，付近の伊那バスターミナルよりバスで17分，駅からタクシーで10分
 高速バスでは名古屋より伊那箕輪行き「伊那インター前下車」，長野より飯田行き「中央道伊那」下車，両バス停より徒歩13分

■周辺宿泊施設

- ・伊那市駅周辺の主なホテル

（農学部周囲にビジネスホテルはありません）

タウンホテル 0265-78-3700

ホテルオオハシ伊那 0265-76-1771

伊那パークホテル 0265-74-2410

青木ホテル 0265-72-2475

ホテル伊東館 0265-72-2798

第一ホテル島田屋 0265-72-3108

シンポジウム

（仮称）『中越震災みどりの復興』—ランドスケープからの提案（案）

1. 名称

緑が護る・緑を守る

『中越震災みどりの復興から学ぶ』—ランドスケープからの提案

2. 目的

- ① 中越震災復興の姿が今後、わが国中山間地の「真に豊かなふるさととの再生」はもとより、景観並びに国土保全のモデルケースとなるべく、ランドスケープからの視点で英知を結集し提案する。
- ② 山古志地域における具体的なプロジェクトの紹介に基づき、持続可能な再生発展の実践に向けアピールする。

3. 日時

平成18年10月19日（木）13：00～16：30（第一部 シンポジウム）
17：30～19：20（第二部 意見交換会）
平成18年10月20日（金）9：00～12：00（第三部 現地見学）
13：00～17：00（第四部 分科会）

4. 会場

第一部：シンポジウム……………長岡リリックホールシアター
第二部：意見交換会……………長岡ベルナール
第三部：山古志 現地見学……………妙見崩れ・芋川河道閉塞現場・油夫予定地
第四部：分科会……………山古志支所

5. 分科会のテーマ

- ①『棚田』（産業再生）
- ②『森づくり』（自然再生）
- ③『生活、コミュニティ』（コミュニティ）
- ④『観光、景観』（地域振興・文化の継承）

6. 参加人数

第一部350名 第二部80名 第三部60名 第四部60名

7. 主催

中越震災・みどりの復興シンポジウム実行委員会
●中越震災みどり復興アクションプログラム委員会
（社長岡市公園緑地協会・（社新潟県公園緑地建設業協会）
●中越震災みどり復興ワークキャンプ実行委員会
（社ランドスケープコンサルタンツ協会ほか）

事務局：〒165-0026 東京都中野区新井2-30-4 IFOビル3階

Tel：03-5345-5745／fax：03-3362-9672

e-mail:tam@tamken.co.jp

株式会社 タム地域環境研究所内

中越震災みどり復興ワークキャンプ実行委員会

代表 秋山 寛

造園・環境緑化産業振興会・平成18年度事業

シンポジウム「新時代の都市公園づくり」

企画書

〔開催趣旨〕

都市公園法施行50周年を迎えた今日、都市公園の利用価値、存在価値は市民に認識され高く評価されている。我が国はこれから少子高齢化、人口減少傾向の中で、環境、防災、景観等の諸課題に配慮しながら、住みよく活気ある街づくりに取り組まなければならない。新しい時代の都市公園づくりに何が求められるかを学び、その実現に向けて私たちがそれぞれの立場でできることは何かを考えたい。

- 開催日時：平成18年11月16日（木）、12時30分～16時
- 開催場所：国営昭和記念公園・花みどり文化センター
- 主催：造園・環境緑化産業振興会
〔(社)日本造園建設業協会、(社)日本植木協会、(社)日本造園組合連合会、(社)ランドスケープコンサルタンツ協会、(社)日本公園施設業協会〕
- 共催（予定）：全国都市公園整備促進協議会、(財)公園緑地管理財団
- 後援（予定）：国土交通省、東京都、立川市、昭島市
- 協賛（予定）：(社)日本造園学会、(社)日本公園緑地協会、(財)都市緑化技術開発機構、(財)日本造園修景協会、(財)都市緑化基金、(財)日本緑化センター、(株)インタラクシオン、(社)ネットワーク多摩
- 参加対象：一般市民、学生、国及び地方公共団体職員、造園・環境緑化産業振興会加盟団体会員等
- 定員：100名
- 参加申込：(社)日本造園建設業協会気付：造園・環境緑化産業振興会
- 参加費：無料

〒102-0083 千代田区麹町5-3
TEL 03-3263-3039
FAX 03-3263-3856
社団法人 日本造園建設業協会

プログラム

- * 開会挨拶 12：30～12：35
- * 講演その1「都市公園がおもしろい」 12：35～13：40
講師：中瀬 勲氏
(兵庫県人と自然の博物館副館長、(社)日本造園学会会長)
(休憩)
- * 講演その2「都市公園行政のこれまでとこれから」 13：50～14：20
講師：小川陽一氏 (国土交通省都市・地域整備局公園緑地課長)
(休憩)
- * パネルディスカッション「新時代の都市公園づくり」 14：30～15：55
コーディネーター：
島田正文氏 (日本大学短期大学教授)
パネリスト：
大塚守康 (社)ランドスケープコンサルタンツ協会会長
高村芳樹 (社)日本造園建設業協会副会長
椎名豊勝 (財)公園緑地管理財団・昭和管理センター長
細野助博氏 (社)ネットワーク多摩・専務理事)
- * 閉会挨拶 15：55～16：00

第5回農村研究フォーラムの開催について（案）

農村は頑張る—農村再生の新たな潮流を育む—

農村地域の活性化のためには、農村の個性・多様性を活かしつつ、都市と農村との間で人・もの・情報の行き来を活性化し、新たな社会経済活動を促すことが重要であるとの観点から、有識者による講演とパネルディスカッションを通じて、農村の再生のための資源にも視座を広げながら、農村研究のかたちを明らかにすることを目的に標記フォーラムを開催します。

日 時：平成18年11月30日（木） 13：00～17：00

場 所：秋葉原コンベンションホール（秋葉原ダイビル内2階）東京都千代田区外神田1-18-13

主 催：独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所

共 催：（予定）農業土木学会、農村計画学会、農村生活学会、日本造園学会

後 援：（予定）農林水産省、日本学術会議農村計画学研究連絡委員会、日本民俗学会

1. 開会の挨拶（予定）

農林水産技術会議 会長

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 理事長

2. 講演

都市農村交流の課題と展望（仮）

齋藤章一（財）都市農村漁村交流活性化機構専務理事

農・林・水が一体となった流域経済圏の構築（仮）

両角和夫 東北大学大学院農学研究科教授

都市農村交流の社会システムの構築（仮）

石田憲治 農村工学研究所農村総合研究部都市農村交流研究チーム長

全国に見るむらの希望と潮流（仮）

甲斐良治（社）農村漁村文化協会 増刊現代農業編集主幹

3. パネルディスカッション

テ ー マ：農村再生の新たな潮流を育むために何をなすべきか（仮）

—地域マネジメントの視点から—

パネラー：上記講演者、ほか（検討中）

進 行 役：高橋順二 農村工学研究所農村総合研究部長

4. 閉会の挨拶

農村研究フォーラム事務局（農村工学研究所企画管理部業務推進室内）

問い合わせ先

〒305-8609 茨城県つくば市観音台2-1-6

TEL 029-838-7678 FAX 029-838-7609 Email kkiku@affrc.go.jp

第15回都市環境デザインフォーラム・関西

- 名称 第15回 都市環境デザインフォーラム・関西
「デザインの力」
- 目的 近年の経済社会の変化に伴い、都市環境デザインにおける「デザイン」の意味や役割も様々に変化しているといえます。
今回のフォーラムでは、広義の「デザイン」に対しその感覚（Sense）の部分に特にフォーカスしつつ、「デザインの力」を再確認するために、【共振】【ファサード】【レイヤー】という3つの切り口による分科会によって、熱く議論してまいりたいと思います。
- 日時 平成18年11月25日（土） 10：00～17：00
- 場所 大阪科学技術センター（大阪市西区靱本町1-8-4 うつほ公園）
- 主催 都市環境デザイン会議 関西ブロック
- 後援（予定） 大阪府、大阪市、神戸市、京都市、(社)日本都市計画学会関西支部、(社)土木学会、(社)大阪府建築士会、(社)日本造園学会、(獨)都市再生機構、(社)日本商環境設計家協会関西支部、(社)日本建築家協会近畿支部
- 問い合わせ先 長町志穂（LEM空間工房） TEL 06-6262-7058

都市環境デザイン会議	関西ブロック
ブロック幹事	千葉 桂司
フォーラム委員長	高原 浩之
同	中村 伸之
同	長町 志穂

都市計画 (通巻262号) 平成18年 8月

〒102-0082 東京都千代田区一番町10番地
 一番町ウエストビル 6階
 (社)日本都市計画学会
 TEL 03-3261-5407 FAX 03-3261-1874

特集：(中部支部企画) 名古屋は元気

- 地図の中の風景 遊蕩のモダン都市 若山 滋 1
 ■まちづくり一期一会 田淵寿郎技監の教えてくれたこと 加藤 晃 2
 ■会長就任挨拶 会長就任にあたって 大西 隆 3
 ■特集論文
 「(中部支部企画) 名古屋は元気」の編集にあたって 松山 明・松本直司 6
 名古屋大都市圏の「ものづくり」と都市産業構造 林 上 7
 中部圏計画と東海環状都市帯 - 「くにづくり中部方式」の検証 伊藤達雄 11
 国際博覧会の開催と会場一帯におけるまちづくり 坂牧正巳 17
 産業構造の転換と都市計画 臨海部の機能転換(航空・宇宙産業の展開) 永瀬 宏 21
 産業構造の転換と都市計画 - 地場産業の高度化 和泉 潤 25
 地場産業とまちづくり(産業観光) - 愛知県常滑市のやきもの散歩道地区 浦山益郎・坂本紳二郎 29
 自動車産業とまちづくり 伊豆原浩二 33
 名古屋・都心の活性化計画と大規模開発 瀬口哲夫 37
 海外からの窓口 ～三河港にみる国際自動車港湾整備～ 戸田敏行 41
 タイ自動車産業クラスターの形成と地域開発政策 日系自動車産業の海外展開と地域開発に関する事例研究として 福島 茂 45
 元気な名古屋圏を維持するために 奥野信宏 51
 ■旬な人 輝く人
 祭りによる地域づくり・人づくりの実践 水野孝一 56
 ■プロジェクトノート
 JR勝川駅周辺のまちづくり ～ルネッサンスシティ勝川～ 春日井市勝川地区総合整備室事業課 60
 半田市／知多半田駅前地区市街地開発事業 ～街の活力と賑わい創出に向けて～

半田市建設部市街地整備課 62

富山ライトレールの開業
 - LRT導入によるコンパクトなまちづくりへの試み 笠原 勤 64

- 都市計画行政の最近の動き
 万博跡地の利用計画 川崎昭博 66
 ■元気にがんばるまちづくりNPO
 平成17年度 名古屋都市景観賞(まちづくり部門)受賞団体
 - 堀川まちネット、夢塾21、やまのて音楽祭、瑞穂うるおいまちづくり会 68
 ■海外特派員だより
 コソヴォ国連暫定統治地域における都市空間計画 ～マスタープランから戦略的プラン、アクション志向型プランへ～ 横田雅幸 104
 バンクーバーダウンタウン都市開発計画 松原雅輝 105
 台湾の新しいエリア型組織：社団法人台北市八頭里仁協会 渡辺俊一 106

農村計画学会誌 2006.6 VOL.25 No.1

〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-9-13
 (目黒・炭やビル)
 (財)農林統計協会内
 農村計画学会
 TEL 03-3492-2988

- 計報 会員 故石川英夫さんを悼む 楠本侑司
 会長就任の挨拶 実践科学としての農村計画学
 - 第13期会長就任にあたって - 石田憲治 3
 総説 アジア農村開発の潮流 海田能宏 4
 特集
 持続的発展に向けた農村開発におけるプランナーの新たな試み - アジア地域における国際協力
 力の取り組みから -
 特集論文
 Factors Influencing Rural Energy Transition Strategies : A Successful Case of Community Participation in India
 V.Anbumozhi and Purushotam 13
 特集報告
 タイ国北部ウッタラディットにおける作物残渣への火入れと堆肥化を軸として資源循環システム化に向けた住民参加型活動の事例
 三原真智人、Lalita Siriwattananon、

「ブルーベイ海中公園／バラクラーバ海中公園」			飯塚 哲	24
藤原秀一	34	コラム：都市公園を楽しくするIT	長沖竜二	28
国定公園から		<計画・調査>		
第34回・能登半島「海の自然保護センターの活動」	美馬秀夫	平成18年度公園緑地事業の展望と課題	伊藤精美	30
レンジャー便り（瀬戸内海）	福田幸正	東京都における公園緑地整備事業の状況	－平成16年度決算及び18年度予算について－	
国立公園 2006年9月号 No.646		松本晃一、橋本久子、山岸智子、		
巻頭エッセイ（第36回）四日分の薪	中道 宏	斎藤 勝、橋本昌史、後藤善雄		32
特集：富士箱根伊豆国立公園指定70周年		東京都における海上公園事業の状況	－平成16年度決算及び18年度予算－	大川達也
・箱根の観光地形成と国立公園	上谷兼一	4		43
・富士箱根伊豆国立公園の70年	赤土 攻	8		
・富士スバルラインの今昔	宮脇 昭	12		
特集：大山隠岐国立公園指定70周年		東京都における自然公園関連事業の状況	－平成16年度決算及び18年度予算について－	
・大山・蒜山の森林に与えた過去の人間活動の影響	佐野淳之	16	紅林宏樹、石川邦夫、中野秀人	47
・大山隠岐国立公園50年と70年	岡本光之	20	都市計画公園・緑地の整備方針について	成田隆一
海外の公園事情				51
⑤パナマ共和国「チャグレス国立公園」	城殿 博	24	民設公園制度の創設について（1）根来喜和子	58
国定公園から			都立公園に関する「福祉のまちづくり」の現状	－バリアフリーからユニバーサルデザインへ－
第35回・群馬県「妙義荒船佐久高原国定公園の紹介」	水澤俊也	26		高遠達也
レンジャー便り（富士山）	有山義昭	30	<整備>	
都市公園 第173号 平成18年7月			市街地再開発事業における公園整備－汐入公園・	
〒160-0022 東京都新宿区新宿6-13-10 （助東京都公園協会 TEL 03-3359-9281			平成18年度4月オープン－	谷内雅之
<特集 情報技術と公園管理>			防災公園の再整備－和田堀公園・城北中央公園・	
「都市公園と情報技術」	山田 雅夫	2	篠崎公園の例－	清水丈太
東京ユビキタス計画・上野まちナビ実験	小幡 裕子	6	<管理・運営>	
動物園等におけるIT活用（二次元バーコード・上野まちナビ実験）	坂本 和弘	10	よりよいサービスを目指し、2つのタイプの店舗をリニューアルオープン	～砧公園内売店・
国営昭和記念公園			小金井公園内売店の改修・改築～	大篠則子
「みどりの文化ゾーン」及び「花みどり文化センター」の情報・発信状況	椎名豊勝	13	小平霊園・さいかち窪に湧き水が	
GISを活用した公園情報の提供	株パスコ	18	野川義秋、佐野清隆	82
「東京都スポーツ施設予約管理システム」の概要	羽田和雄	21	首都圏公園緑地管理9団体の『今』－(助埼玉県公園緑地協会の場合 助埼玉県公園緑地協会	86
(助東京都公園協会ホームページ			日比谷公園からの発想（1）“西洋”の受容	進士五十八
「公園へ行こう！」へのリニューアルと情報提供			コラム：都市のセントロストラクチャーへの寄与	96
			<まちの木>真夏大好き“ノウゼンカズラ”	97
			都市緑化技術 (No.60) 2006. WINTER	
			〒105-0001 東京都港区虎ノ門1丁目21番8号	
			秀和第三虎ノ門ビル3F	
			(助都市緑化技術開発機構	
			TEL 03-3593-9351	
			都市緑化植物図譜⑤ つるになるキク	ームテ

イシアー	3	地球時代の視点から (株)緑景/山川産業(株)	60
都市緑化技術グラフィティ 大イチョウの移植技術	4	研究ノート ハビタット・ポテンシャルの簡易	
花を飾ろう 春を知らせる花たち	4	な評価手法の研究	角南勇二 62
巻頭言 コンセプトとカタチ	5		亀山 章
特集 緑の自然生態的機能の向上を目指す技術		道路と自然 平成18年夏号 第132号第33巻第4号	
我が国における緑の自然生態的な機能向上に向けた諸課題	6	〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-7-2	
日本の生態系史と人為生態系	16	大東ビル	
外来生物問題と生物多様性緑化	20	(社)道路緑化保全協会	
道路緑化における地域性苗木の生産について	23	TEL 03-3504-0311	
内山拓也	23	論説 世界を変える観光	中村 良夫 2
河川緑地における植物種の保全の取り組み	27	特集	
岡田久子/倉本 宣	27	特集「みどりの効用」	
～新しいカタチの生物情報収集・展示～ 国営		緑による建築・街区空間の熱環境改善効果につ	
昭和記念公園 自然再生の取組とバイオアーカイブ展示	31	いて	加藤 順子 6
望月一彦	31	緑化による総合的環境保全効果	
国営吉野ヶ里歴史公園における地域の自然資源		小澤徹三・川原田圭介	14
活用への取り組み 国土交通省九州地方整備局		生態系評価・復元手法の検討 -生物多様性の	
吉野ヶ里歴史公園事務所		保持に向けて	小澤徹三・吉田祐介 20
/鳥越昭彦/岡島桂一郎	35	心に映る道の風景 パリからル・ノートルの作事を	
本城緑地における樹林再生の取り組み		たどる道	杉尾伸太郎 26
北九州市建設局公園緑地部緑政課		緑化紹介	
/鳥越昭彦/今泉智之	37	東九州自動車道 北九州JCT~苅田北九州空港	
●海外情報		IC間の緑化について	藤原辰也 28
植物-最も重要な材料		那須街道林間道路	京谷 昭 31
ホルスト・シュミット【翻訳】半田真理子	40	紀勢自動車道 勢和多気JCT~大宮大台間の緑	
●技術開発基金による調査研究助成		化について	小倉 功 36
「落葉層を活用した緑化技術の研究」落葉の厚さとカシ類種子の出芽・成長に関する研究		随筆	
吉田博宣/平澤 梢/岩田朋子	47	多様化する若者の職業観・人生観	池田 弘 40
みどり人間 裏戸秀幸	51	研究紹介	
新・都市探訪 八戸市 みんなではぐくむ		山岳地道路がもたらす種多様性維持効果と温暖	
水と緑と歴史のまち・八戸	52	化による垂直分布域の移動に関する研究	
最前線技術レポート		前中久行・金銅清吏・大野朋子・田端敬三	42
⑤⑥ 北海道の外来種リスト		近畿地方整備局「グリーンマネジメントガイド	
-北海道ブルーリスト2004-について		ライン(案)」	岸本安弘 46
北海道環境生活部環境局		海外レポート	
自然環境課特定生物グループ	54	フランスの地方景観事例の紹介 フランスの美	
⑤⑦ 砂漠緑化計画への取り組み -持続可能な		しい村々	桑原正明 50
オアシス創生の実現-	56	東ティモール調査団報告	星子 隆 54
まちの話題ウォッチング アーベインビオ川崎		ニューブランツ	
における環境共生の取り組み		ハツユキカズラ/セイヨウアサガオ	白瀧嘉子 58
独立行政法人都市再生機構	58	みちくさ	60
		寄稿 「日本の道100選」に見る良好な道路植栽とその特徴	浅村一冬 64

1. 名古屋の8月7日、多点同時気温観測と緑地の役割について

滝川正子（名古屋気温測定調査実行委員会）

ひと昔前は、森や田などの水辺、緑地がクールアイランドとなって、街を冷やしていた。今や、街はヒートアイランドとなった。そこで、街づくりと緑の役割を再認識しようと名古屋気温測定実行委員会は「名古屋の夏は暑いのか？みんなで気温を測るまい！」と題して協働で同時多点測定を行なった。市内2kmメッシュ、東山の森500mメッシュ、海上の森、日進市の計174地点で、朝5時から夜8時までの毎正時に気温と風向、風力を測定した。参加者は森づくり活動団体、行政、研究室、自然観察会など約400名。結果は、最大温度差は4.4度もあり、ヒートアイランドの拡張化とクールアイランドには良質な水辺と緑があることを数値で証明することができた。

2. 集落水系を利用した池泉式庭園について

宮嶋英好（南九州大学環境造園学部）

福岡県甘木市秋月地区は古く江戸時代からの町並みを残しており、地区内には当時の生活用水のための水路が網の目のように張り巡らされている。当時の原型を留めている古庭園の水系に着目し、特性を明らかにした。古庭園は武家屋敷庭園と町家庭園に分けることができ、水の取り入れ方などから池泉型と流水+池泉型の二つに分けることができた。町家庭園でも池泉を構えられることができたのは、生活用水、防災という実利的な要請からである。また、各庭園の池泉は孤立したものではなく、全体として水系ネットワークを形成している点も大きな特徴である。この水路沿いの庭園は、生活環境の潤いや町の美観、防災の面から重要な役割を持っている。

3. 国道302号整備におけるヒメボタル保全対策の検討

間宮敏博（国土交通省中部地方整備局）

一般国道302号は、名古屋市のほか外周部に位置する総延長66.2kmの環状道路で、名古屋市緑区の道路敷地内にヒメボタルが生息していることが確認された。ヒメボタルは道路敷地から周辺にかけて広く確認され、特に道路敷地に隣接する神社林で多く確認された。ヒメボタルの保全対策として、照明の工夫など道路の設計や工事に各種の配慮を行うことと

し、改変が避けられない道路敷地内のヒメボタルについては、既存の生息地に影響を与えない範囲で成虫移植及び表土移植による保全を試みることとし、2005年5月には、事前に生息環境の改善を図った移植地に、雌179個体、雄190個体の成虫移植を実施した。

4. 都計弥富一相生山緑地「環境に配慮した道づくり」の取り組み

山口 誠（名古屋市緑政土木局）

都計弥富-相生山緑地は1957年に告示された都市計画道路で、名古屋市天白区の相生山緑地の中を通る約900mの区間が未整備となっている。道路幅の縮小・シェルター構造・擁壁構造・橋梁構造を採用すれば、改変面積が約40%減少し、シェルター上部の緑化復元によって改変部分の約20%が復元可能になる。施工設計段階へ移行するにあたり、地元地権者・地元住民・公募による市民・行政・施工者にインスペクターを加えた「施工ワーキング」を立ち上げた。2005年9月までに週末を利用して28回のワーキングを行い、環境配慮リストに基づいた施工の点検・提案、動植物や土壌の調査、及び樹木の移植法の検討を行っている。

5. 雨池ホタルの会が行う防犯活動の意義

若杉和男（若杉造園）・岡村 稔（名古屋市立大学）

「雨池ホタルの会」は、名古屋市守山区の大森北小学校区に居住する大人達が集まって、1998年に結成された会員数120名のボランティア組織である。主な活動は、ヒメボタルの生息地の保全活動、子ども達へのヒメボタル観察会の実施、そして雨池公園愛護会としての毎月の清掃活動である。防犯提灯を使った夜のパトロールの効果は劇的で、電車の乗降客が集団で大通りまで迂回し、痴漢発生場所周辺の人影が消えて、駅前のコンビニ前で訳もなく座っていた少年達や不審な車が消えた。町の防犯には不審者が潜む樹林地の開削や防犯灯設置の充実が求められる。地域の自然保護団体が防犯活動等にも関心を示すことで、生き物の棲める町づくりも可能となる。

6. 守山自然ふれあいスクールの活動と課題

岡村 稔（名古屋市立大学）

名古屋市守山区内では、市民団体の代表及び行政が集まって懇談会や検討会を開催し、複数の団体が共同主催しそれぞれの得意な活動を通じて補い合う

「守山自然ふれあいスクール」事業を展開し、区民が自然とふれあう機会の提供や環境学習を実施している。区内の自然環境の問題点や区民への啓発方法に関して話し合う機会には、8市民団体の代表及び区まちづくり推進室、区土木事務所緑地係長・工務係長、及び区生涯学習センター社会教育主事が出席して情報及び意見交換を行う。活動理念の違いを克服するために「互いに他団体のやり方に干渉しない。」という取り決めの上で、「自然とふれあえる3つのコース」と題した企画に取り組んだ。

7. 第42回国際造園家会議エジンバラ大会に参加して 岡村 穰(名古屋市立大学)

2005年6月26日から29日にかけて、スコットランドの世界遺産都市エジンバラに於いて、昨年の東地区担当の台北大会に続いて、中央地区担当の世界大会が行われた。IFLA世界大会の魅力は、世界の造園関係者との交流とそのテーマにある。今回は「都市・農村の発達と衰退」及び「安全な都市と町」というテーマに惹かれて参加した。景観デザインが、衰退した都市を蘇えらせ、町の安全を回復するというので、それ程目新しい内容ではなかったが、世界中が復興と安全を望んでいる現状を身近に感じることができた。エジンバラ市内の景観への配慮や公園の利用状況、及び見学会で訪れた新設庭園のデザイン及び工事に関する配慮について紹介する。

8. イサム・ノグチのリーダーズ・ダイジェスト東京支社庭園(1951)の制作過程とデザインについて 田井洋子(信州大学大学院農学研究科)

イサム・ノグチ(1904-88)は単体彫刻のみならず空間彫刻としての庭園やランドスケープを手がけた彫刻家である。彼は1951年建築家アントニン・レーモンドよりリーダーズ・ダイジェスト東京支社庭園のデザイン依頼を受け、設計から現場にまで携わった。当時、彼は伝統的の日本庭園に空間彫刻のヒントを見出し、またモダニズム建築に対応する庭園空間＝空間彫刻の模索を始めていた。この足跡は現代の庭園デザインにも示唆を与えうると考える。本稿では彼の最初期の庭園作品であるリーダーズ・ダイジェスト東京支社庭園における伝統的の日本庭園の取入れ方とモダニズム建築への対応の仕方について文献・写真・図面資料により明らかにする。

9. 地方都市近郊農村集落住民の森林意識の近年の変化 伊藤精悟(信州大学農学部)

農村住民が里山を利用しなくなって既に40年近く経過している。特に都市近郊では住民生活の農業からの離脱が著しい。集落が隣接する山地部は放置され、植生遷移が進み、森林に生育している。長野県伊那市の山麓農村区域である富県地区で1994年夏に森林利用の意識調査を行っているが、丁度、10年を経過して2004年夏に同様の意識調査を行うと共に、この間進められた森林育成の住民活動に参加している。富県地区の森林育成を積極的進めている貝沼集落を取り上げ、森林に対する住民の意識変化と森林育成の関係について考察を行う。森林所有者を含む住民の森林への期待は、環境面の期待が高まっているが、森林育成は経済的目的を主眼としている。

10. 里山環境における信仰や祭りと人々の生活及び農林地との相互関係について一飯山市小菅集落を対象として一

鈴木 尚(信州大学大学院農学研究科)
佐々木邦博(信州大学農学部森林科学科)

中山間地域は、農林業の衰退や過疎化により社会的に弱体化し、各地域や集落の祭等の文化面も縮小、衰退している。本研究では、長野県小菅集落を対象とし、祭の文化の中での里山環境と農林地や人の暮らしとの関係を明らかにし、里山利用継続への関連性について考察した。調査により、小菅では四季を通じ各家と集落で様々な文化的活動が行われていることが明らかになった。これらの中で、各家での文化的活動は里山環境との関連性が希薄化しているが、集落単位の活動はその中で使用される植物量、集落や農業に関連する祈願が多いことが明らかになった。これにより集落単位で行われる祭の継続は、多様な里山利用の継続に寄与すると考えられた。

11. 愛知青少年公園「日本庭園」について

三宅 安(愛知県建設部公園緑地課)

2005年9月25日をもって閉幕した「2005年日本国際博覧会～愛・地球博～」時に博覧会会場の一部として利用された「日本庭園」は、愛知県が都市公園事業により平成14年度から整備を行ってきた。私は現場の工事が始まった平成14年度から博覧会開催前の平成16年度までの間、本庭園工事を発注した愛知

県尾張建設事務所名古屋東部丘陵工事事務所に所属しており、発注者側の監督員として本庭園工事に携わってきた。よって、その担当者として本工事における特徴的な事項について述べたい。

12. フランス国アンジェ市における緑地の現状について

佐々木洋司（信州大学農学部）

海外には素晴らしい緑地景観を見せる都市が多くある。それらの都市はどのようにして現在の景観を手に入れたのか。本研究では、日本の中都市と同程度の自然環境、都市の規模を持ったフランス国Val de la Loire県Angers（アンジェ）市を実例として、緑地計画、管理運営など、緑地体制のあり方、またそれに伴う景観について詳細に調査した。その結果判明した、アンジェ市の緑地配置や植栽管理の方針、また行政機構や予算を報告する。

13. なぜ、日本の町は醜くなるのか：美しい景観形成に向けた「緑」の問題点と改善に向けての提案（試案）

井上忠佳（株創建）

内藤英四郎（株内藤ランドスケープ計画事務所）

山本忠順（株L A U公共施設研究所）

景観問題は、街なみから都市全体へと対象をする方向へ拡大しつつある。そのうち造園分野で扱う景観は、花壇から大自然までに及び、地域全体の景観、生物多様性の健全性をあらゆる自然的土地利用に大きく関わるとともに、建築的／土木の空間の中での修景要素として重要な役割を果たしてきた。しかし、この半世紀の間、快適さや美しさに対する感性が見失われ風景の分断が進行した。ここでは、造園分野における醜い景観の実態をレビューしてその問題点を議論して総括し、美しい景観整備に向けて今後改善にむけて取り組むべき課題として提案した。

14. 長野県駒ヶ根市における地区レベルの緑の住環境の分析

村松保枝（信州大学大学院農学研究科）

近年、住環境の質を高める上で緑の必要性が論じられている。各市町村では、緑の基本計画を策定し、緑地の保全及び緑化を目指している。しかし、地区レベルの緑の現状把握や計画に関しては不十分である。地方小都市の緑地計画として、長野県駒ヶ根市

の住居及び商業地域における住環境と緑の現状を、自治会の地区レベルで把握し、緑地の保全及び緑化に関する詳細な資料を得ることを目的とする。16地区の住環境を対象に緑視率、緑被率、建蔽率、農地の残存などを調査し、その関連性を分析するとともに地区間の比較を行った。これにより地区レベルでの緑の現状が明らかとなった。

15. 長野県松本市における行政主導によるオープンガーデンの成立要因

横矢美和（信州大学大学院農学研究科）

近年、オープンガーデンの活動は各地で展開されている。これらの活動の中で、行政主導による緑化推進を目的とした長野県松本市を事例地とし、その成立前後の参加者の意識の変化と庭の構造を明らかにし、オープンガーデンの成立要因と今後の展開の可能性を見出すことを目的として、松本オープンガーデン参加者30戸にアンケート調査と庭の構造の調査を行った。回答は16戸から得られ、回収率は53.3%であった。結果から、参加者の庭は洋風で開放的なものが多く、また庭づくり経験年数は長短があった。参加者は時間裁量のある職業で50～70代が多くを占め、庭づくりの交流を求めている自発的な参加が多いという特徴が見られた。

16. 戦前における「森林美学」の系譜

清水裕子（岐阜連合大学院）

森林の風致向上を目的とした「風致施業」の明確な定義は困難を極める。本研究では「風致施業」の定義付けへの一助として、明治中期の「森林美学」導入から保健休養・風景維持のための施業方法としてその定義が確立しつつあった昭和10年ごろまでの、「森林美学」の辿った系譜を明らかにすることを目的とした。その結果、「森林美学」の展開の系譜として3つに大別することが出来た。一つは明治以前の旧来の名所・旧跡の継続としての嵐山の「風致施業」への定着、次に林学としての「森林美学」の学問体系の確立として発展し、最後に新しい風景観によって選定された国立公園に視座を置いた、実現可能で具体的な利用を目した「保健風致林」、 「風景林」創出への変遷であった事が明らかになった。

17. 地方都市の日常生活圏における森林の実態

林 勝也 (信州大学大学院)

住民の森林利用は周辺環境によって異なると言われる。日常生活圏内に存在する森林の役割を利用面から明らかにする事は重要である。本発表では第一段階として長野県南部の地方都市である駒ヶ根市の日常生活圏での森林の様相を明らかにする事を目的とした。航空写真、農林業センサス等の資料から行政区単位で人口、樹林地面積、耕地面積を計測、算出し、駒ヶ根市を分類した。各行政区単位間で森林の残置率、平面分布が異なる事が明らかになった。これらは各行政区の森林と住民との接近性に関与し、また関連して住民の森林利用が異なると考察された。

18. 公園・緑地等において間伐材を大量かつ有効に活用する新技術

尾崎友美 (㈱創建トラス)

丸山 昇 (㈱創建)

間伐材の利用促進が叫ばれて久しいが、未だ技術・製品が市場に定着していない。本稿では、無垢の間伐材を大量に有効活用する新技術「名古屋構匠」の概要を解説する。名古屋構匠は、間伐材による二種類の長さの軸材と一種類のシンプルな接合方法のみで様々な施設を構築する立体トラス工法であり、従来工法と比べ「理論の単純化」と「施工の簡便性」を実現した。これにより各地の森林組合等が独力でこの工法を活用でき、木材の地産地消が可能となる。既に公園緑地等における簡便な施設に導入実績を有し、今後は大規模建築向けの技術開発（商品化）を進める。この技術の普及により「森林保全産業」ともいべき新たなマーケットの創出を目指す。

19. 林相の異なるアカマツ〜ヒノキ林における快適性評価

美馬菜保子 (信州大学農学部)

森林内に入ると我々は多くの刺激を同時に受け、入った森林固有の印象や快適さを感じる。本研究では長野県南部にある大芝公園林内の3箇所（アカマツ90年生密、アカマツ90年生疎、アカマツ45年生）を対象とし、森林空間における刺激と森林の快適性との関係を明らかにすることを目的とした。調査は各林内でアンケート調査を行うとともに、林分調査（毎木調査、殖生調査）と林内環境調査（照度、温

熱環境、開空度、緑視率、見通し調査）を行った。アンケート調査により、3森林間には快適性の感じ方に差異が見られた。これらは、各々の林分構造がもたらす林内環境の差異と関連していることが考察された

20. 事例調査からみた駐車場緑化の課題

藤原宣夫 (愛知県建設部)

小松 孝 (㈱緑の風景計画)

松江正彦 (国土技術政策総合研究所)

近年、大都市部では、緑地や水面の減少とともに、建築物・舗装等による人工被覆が進み、ヒートアイランド発生の一因となっている。緑化によるヒートアイランド軽減策として、緑化余地の少ない大都市部においては、屋上や壁面の緑化に加え、比較的大きな面積を占める駐車場が緑化候補地として注目されており、駐車場の緑化推進方策の検討が必要とされている。そこで、課題抽出を目的として、駐車路面の芝生緑化事例を中心に、関東10カ所、中部1カ所、沖縄1カ所の駐車場緑化事例を対象として、施工・管理方法等について調査した。その結果、芝生の生育不良の改善、緑化による環境保全効果の解明、規制・支援制度の整備などの課題が明らかにされた。

■ポスター発表

1. 日射量および土壤水分量との関係でみた薄層緑化の蒸発散量

大野朋子・前中久行

(大阪府立大学大学院生命環境科学研究科)

山本 聡 (兵庫県立大学自然・環境科学研究所

／兵庫県立淡路景観園芸学校)

薄層緑化の植物材料としてメキシコマンネングサおよびティフトンシバを用いた。十分な灌水を行った後、それぞれについて時間を追って日射量および植栽コンテナ重量を測定し、蒸発散量の変化を求めた。その結果、日射量に応じて蒸発散量が多くなる事が明らかとなり、特にメキシコマンネングサにおいては、土壤水分量が少なくなると、蒸発散量は著しく低下することが明らかとなった。

ランドスケープ遺産保全委員会

文京区立元町公園の都市計画変更問題にかかわる学会の取り組み状況 （中途報告）

既に本会ホームページでお知らせのとおり、本年4月以降のみとなりました東京・文京区立元町公園の都市計画変更案について、ランドスケープ遺産保全委員会ではわが国のきわめて重要な造園・ランドスケープ遺産／資産の存続にかかわる重大な問題と認識し、文京区その他関係機関等への働きかけを進めてまいりました。これまでに4回にわたり要望書を文京区長他に提出したほか、本会関東支部や関連する市民団体等とも連携してシンポジウム、展示会等を実施してまいりました。こうした中、去る7月26日にこの都市計画変更案を議題として開催された文京区都市計画審議会では、元町公園の価値ならびに計画変更後の公園を含む将来全体像についての審議材料の乏しさから議論が進められず、同区の文化財保護審議会および景観審議会での検討の必要性も指摘され、継続審議という結果となりました。しかしながらその後の区の方針は不透明であり依然として予断を許さない状況にあり、本会としても引き続き様々な働きかけを進めてまいりたく、会員の皆様のご理解とご支援をいただければ幸いに存じます。

これまでに提出した要望書および概略経緯

- 4月5～8日 文京区「元町公園に関する都市計画素案説明会」開催、計画を公表
- 4月20日 文京区立元町公園の保存に関する要望書（会長名）
- 6月1日 文京区より回答書「文京区立元町公園の保存に関する要望書について（回答）」
- 6月20日 平成18年6月1日付け「文京区立元町公園の保存に関する要望書について（回答）」に関する質問及び文京区立元町公園の貴重な歴史的・文化的資産としての保存・活用のための検討に関する要望（質問書）（委員長名）
- 6月21日 文京区、都市計画法17条に基づく縦覧・意見書の募集（－7月5日）
- 7月12日 文京区立元町公園の保存に関する再要望書（会長名）
- 7月26日 文京区都市計画審議会開催、元町公園の都市計画変更について継続審議となる
- 8月18日 文京区立元町公園および旧元町小学校に関する文化財保護審議会および景観審議会の開催を求め
る要望書（景観計画・デザイン計画研究委員会委員長と連名）

平成18年 4月20日

文京区長 煙山 力 殿

社団法人 日本造園学会
会長 中瀬 勲

文京区立元町公園の保存に関する要望書

時下益々清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、本会の活動に対し多大な尽力を賜り、心より感謝いたしております。

さて、現在貴区におかれまして計画中の区立元町公園の都市計画変更に関わり、現公園の旧元町小学校跡地への移設および現公園地への総合体育館の整備が検討されていると聞き及んでおります。

ご承知のように、元町公園は、関東大震災に伴う帝都復興事業により、昭和5（1930）年に東京市（当時）により設置された、戦前よりある古い公園の一つです。灰燼に帰した東京の復興事業では、地域コミュニティの拠点として東京市内において52か所の小公園が小学校に隣接されて設置されました。これは都市計画史・造園史上、世界的にみても特筆すべき事業ですが、その後戦災を経た急速な東京の発展の中で、元町公園は52小公園のうち当時の姿を現在に伝えるただ一つの公園として生き残り、近代都市の社会資本として大変貴重な公園であるといえます。

これに加えて、元町公園のデザインは、復興52小公園の中でも極めて質の高いものであり、敷地の高低差を生かしたカスケードや階段、テラス、パーゴラなど、大正・昭和初期のモダニズム思潮が展開された極めて特徴ある造形美と景観を現在に伝える、わが国の近代都市の文化遺産としても国内で他に類のない大変貴重な公共の庭園です。

このように元町公園は、貴区のみならず東京およびわが国の近代ランドスケープ遺産として貴重な文化財といえますが、本公園が現在まで存続し得たのは、貴区および近隣住民の方々が本公園の歴史的・文化的意義を高く評価し、地域の中で本公園を大切に活用されてこられたからと推察され、事実、貴区におかれまして自ら昭和50年代に当時の本公園の改修整備の方針を転換して復元整備を実行されたことは、歴史的環境を活かしたまちづくりへの先見的、画期的な英断であったと感服いたします。また、昨今の貴区の基本構想や緑の基本計画においても、歴史的環境への配慮やその活用を重要施策として掲げておられることは、持続的なまちづくりの方向性として本会も強く賛同するところです。

しかしながら、現在計画中の都市計画変更が実現されるならば、元町公園は取り壊しを免れず、三四半世紀を経た場所に積み重ねられた歴史によって形成された空間が失われることは、本会としても大変憂慮しております。

つきましては、元町公園の歴史的・文化的価値についてあらためてご理解いただき、一度失えば二度と取り戻せない貴重なランドスケープ遺産が後世に継承される形で保存・活用されますよう、格別のご配慮を賜りたくお願い申し上げます。

平成18年6月20日

文京区長 煙山 力 殿

社団法人 日本造園学会
ランドスケープ遺産保全委員会 委員長 進士五十八**平成18年6月1日付け「文京区立元町公園の保存に関する要望書について（回答）」に関する質問及び文京区立元町公園の貴重な歴史的・文化的資産としての保存・活用のための検討に関する要望（質問書）**

時下益々ご清栄のことと御慶び申し上げます。

平成18年4月20日付けで本会より送付させていただいた「文京区立元町公園の保存に関する要望書」に対し、平成18年6月1日付けで貴区より当学会に御回答をいただきました。御礼申し上げます。

さて、私共で検討させていただきましたところ回答書において、特に歴史的・文化的な遺産の保存の重要性の観点から不明な点がござります。ご多用のところ恐縮ですが、以下の点に付き、速やかに御回答いただきたく存じます。

1. 貴区の平成18年6月1日付け御回答において、「元町公園が、公園と小学校が一体となった震災復興公園として、歴史もあり、優れたものであることは、文京区としても認識しています。」とありますが、この記載では、当学会が平成18年4月20日付けの要望書において御示唆申し上げた元町公園の歴史的・文化的遺産としての価値について、貴区がどのように御認識されているのかが明らかにされていないと存じます。貴区が御認識されていることについて、具体的な価値等の評価内容を含めて御伺いいたします。
2. 上記1. と関連して、当学会の平成18年4月20日付け要望書においては、元町公園が震災復興事業により設置された52の小公園のうち、当時の姿を現在に伝える唯一のものであり、我が国の近代ランドスケープ遺産として歴史的・文化的に顕著な価値を有し、後世に遺し伝えるべき貴重な遺産であることを御指摘申し上げましたが、そのことに対する具体的な御認識について御質問申し上げます。
3. 上記1. および、2. と関連して、過去において元町公園を貴重な文化財として条例その他の法令に基づく指定等の措置により保護する検討がなされたかのようにも聞き及んでいますが、そのような事実の有無について御教示頂ければ幸いです。また、そのような事実があったのであれば、①貴区の文化財保護審議会等において検討されたか否か、②文化財としての保護について、貴区として当時どのような判断がなされたか、及び③文化財の保護の観点からは現在どのような判断状態にあるのか、について御回答頂ければ幸いです。
4. 貴区の平成18年6月1日付け御回答において、「現在の元町公園については、高低差が多く、平地面積が少ないため、近隣の利用者からは、快適性や防災的な機能を求める要望も出されており、」とありますが、これには歴史的・文化的遺産の観点からの要望については触れられていませんので、地域住民及び近隣の利用者から元町公園の保存を求める要望の有無についても御教示頂ければ幸いです。また、地域住民及び近隣の利用者から元町公園の保存を求める要望が出されているのであれば、それに対する貴区の対応についても御回答頂ければ幸いです。
5. 貴区の平成18年6月1日付け御回答において、「復興公園の目的である、隣接した小学校の校庭との併設により、空地面積を確保し、校庭の延長としての近隣コミュニティの核として利用されるとの意味付けは、元町小学校廃校の時点で終えたと考えています。」とありますが、これによって元町公園の貴重な歴史的・文化的な資産としての重要性は損なわれることは無いと考えられます。例えば、全国各地に所在するすべての歴史的な城跡等はその設置当初の目的・役割を終えています。貴重な歴史的・文化的遺産

産としての高い価値については極めて数多くの城跡において十分に認識され、全国各地において大切に保存されていることを思えば、御理解いただけることと存じます。また、これらの歴史的・文化的遺産において完全な形で遺存しているものは極めて限られており、多くの遺産においては現代に継承されている限られた遺存状態を良好な形で遺し伝えていこうとの努力が取り組まれています。以上のような観点から、上記1. および、2. と関連して、平成18年4月20日付けの要望書において当学会がその主旨としている元町公園の遺産としての保存・活用の重要性等の観点については、前回の御回答には十分に示されていないと考えられますので、改めて御回答いただきたいと思います。

6. 貴区が昭和50年代に元町公園の改修整備の方針を転換して復元整備を実施されていることについては、平成18年4月20日付けの当学会からの要望書にお示しましたように、歴史的環境を活かしたまちづくりへの先見的、画期的な英断であり、歴史的・文化的遺産の保存の観点からも極めて高く評価されることと存じます。これは当時貴区においても元町公園の歴史的・文化的遺産としての価値を深く御認識されたことと考えられますが、本会のこのような理解が正しいものか否かを確認するため、当時の御認識について御回答頂ければ幸いです。さらに、上記1. と関連して、もし、この当時と現在とにおいて御認識の差異があれば、その理由についても御回答頂ければ幸いです。

以上の質問も踏まえつつ、本会においてランドスケープに関わる歴史的・文化的遺産の保全について取り組む「ランドスケープ遺産保全委員会」としては、とりわけ元町公園が有する歴史的・文化的遺産としての極めて高い価値の保存の重要性の観点から、以下に重ねて要望いたします。

当学会が平成18年4月20日付けで貴区に対して提出いたしました「文京区立元町公園の保存に関する要望書」においてもお示したように、元町公園は貴区のみならず東京及び我が国の近代ランドスケープとして貴重な文化財と言えます。例えば、昭和53年に日本公園緑地協会から発刊されました『日本公園百年史』においては、全国各地の公園から特に選ばれた6つの事例紹介口絵写真の一つ、「唯一の面影を残す震災復興元町公園（東京都文京区）」として掲載されているほか、本書の震災復興公園について記した部分の最後には「元町公園、大塚公園の如きは、昭和初期の造園遺産として完全に保存されることが望ましい。」とされているなど、その価値については、近年全国各地において保存と活用が活発に取り組まれている近代の遺産の中でも、特に早くから極めて高く評価されていたと言えます。

本委員会としましては、もし仮に元町公園の歴史的・文化的遺産としての価値及びその保存に関する検討が十分されないまま失われることになるのであれば、とりわけ文化政策上の観点から、極めて憂慮すべき事態であると認識しております。

つきましては、元町公園の歴史的・文化的価値について改めて御理解いただくとともに、一度失えば二度と取り戻すことのできない歴史的・文化的資産である貴重なランドスケープ遺産としての元町公園を後世に継承される形で保存・活用されますよう、格別の御配慮をもって開かれた場において十分に御検討賜りたく重ねて御願ひ申し上げます。

なお、本要望への御回答についても上記質問に対する御回答と併せて速やかに文書にていただければ幸いです。

平成18年7月12日

文京区長 煙山 力 殿

社団法人 日本造園学会
会長 中瀬 勲

文京区立元町公園の保存に関する再要望書

時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

4月20日付けで本会より送付させていただいた「文京区立元町公園の保存に関する要望書」に対し、貴区よりご回答をいただき感謝申し上げます。また「都市計画変更（元町公園）に関する説明会の意見要望等及び回答について」を公表いただきましたことは貴区の計画の内容や考え方を知る上で大変参考となりました。

貴区の基本的な考え方が、体育館と公園を一体整備することであることはこれらの回答からも理解されます。しかしながら、体育館の建築計画等については未定とし今後のプロポーザルに委ねられる一方で、公園のみを先行して計画変更されることは、都市計画のプロセスとして理解に苦しみます。一体整備を謳われる以上、全体計画が最初に提示され、これに従って個別計画が検討されるのでなければ、住民・市民は誰もその可否を判断することができません。説明会の回答書によれば、敷地を確定しないとプロポーザルの募集ができないため、先に公園敷地を確定したいとのことですが、公園を含めた全体をプロポーザルとして募集することも可能なはずで

す。貴区は本会の要望書への回答において、「不特定多数の人たちが利用する体育館と機能を向上させた公園を一体整備するためには、現在の公園の位置を、小学校跡地側に移し、体育館を外堀通り側にするほうがより適切と判断した」と説明されましたが、このような判断は、公園と建築その他を含めた全体計画が検討されてはじめて可能なものです。そしてこうした判断が住民・市民に理解されるには、全体計画とその内容の具体的な検討過程の住民・市民への十分な提示が不可欠のプロセスです。

さらに市民団体が開示請求した湯島の総合体育館敷地に関する情報、および貴区から6月9日に公表された「文京区小・中学校将来ビジョン」を総合したところ、今回の計画変更は貴区全体の小中学校統廃合と関連した広範な将来計画にも関わりのあることが明らかとなりました。このような将来に関わる広域的計画がありながら、その住民・市民への十分な提示がないままに一部の計画のみが先行して縦覧され、都市計画審議会に諮られることは、都市計画法の趣旨とも相容れないものです。本会は造園計画学・都市計画学に取り組む学術団体として、このような一部の計画を全体に先立たせる、都市計画の基本的プロセスとは逆の手順によって、先般要望申し上げたとおり価値ある元町公園の消失が決定されることを深く憂慮するものです。

つきましては、元町公園の歴史的・文化的価値をあらためてご理解いただくとともに、適正な都市計画のプロセスにのっとり、貴重なランドスケープ遺産の保存・活用が検討されますよう、格別のご配慮を賜りたく重ねてお願い申し上げます。なお、本要望書への回答を文書にいただければ幸いに存じます。

平成18年 8月18日

文京区長 煙山 力 殿
文京区教育委員会教育長 宮下 眞 殿

社団法人 日本造園学会

ランドスケープ遺産保全委員会
委員長 進士五十八
景観計画・デザイン研究委員会
委員長 熊谷 洋一

文京区立元町公園および旧元町小学校に関する 文化財保護審議会および景観審議会の開催を求める要望書

時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

去る7月26日に開催されました文京区都市計画審議会では、元町公園の都市計画変更の議案に関して継続審議となりましたが、この議論の中で元町公園の価値および計画変更案について、継続審議にあたって区の文化財保護審議会および景観審議会での検討の必要性が強く指摘されたことを聞き及んでおります。これは本会などからもこれまでに申し上げている通り、元町公園の価値ならびに計画変更後の公園を含む将来全体像について判断材料が乏しく、審議を進めることが困難なことが都市計画審議会においても強く認識されたものと理解されます。

しかしながら新聞報道等によれば（例えば東京新聞8月11日朝刊）、貴区は元町公園の「文化財的価値は検討しない」方針であることを明らかにされました。これは諮問機関である都市計画審議会での議論を無意味とする姿勢と受け止めざるを得ません。つきましては、都市計画審議会が継続審議となった趣意に従い、元町公園の価値および計画変更案を議題として、貴区の文化財保護審議会および景観審議会をそれぞれに開催いただき、その双方の審議結果を継続して開催される都市計画審議会の議論の材料としていただけますよう強く要望いたします。なおこの際に、元町公園と極めて深いかかわりをもつ旧元町小学校の価値や今後の取り扱いについても含めて一体的にご議論いただけますよう合わせて要望いたします。

本要望書に対する貴区のご回答を文書にていただければ幸いです。なお、これまでに本会より貴区宛にお届けさせていただいた、本年6月20日付質問・要望書ならびに本年7月12日付要望書に関しまして、今のところ貴区からのご回答をいただいております。継続審議となった都市計画審議会をはじめ、今後さらなる議論が進められる上でも貴区の考えが広く公開されることは欠かせないことと存じます。ご多用のところ誠に恐縮ですがすべての要望書ご回答いただけますよう重ねてお願い申し上げます。なお、過日分に関しまして行き違いにご回答いただきました節にはご容赦願います。